

# 19年度 決算説明資料

## ※予測に関する注意事項

・本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて作成しておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。

**2020年4月**  
**株式会社タダノ**

Tadano Ltd.

◇昨年7月31日にDemag事業の買収が完了しました。本資料におけるDemag事業の取り扱いは以下のとおりです。

- ・19年度連結財務諸表:貸借対照表(12月末)、損益計算書(8~12月)を含んでおります。
- ・需要数値:クローラクレーンは含んでおりません。
- ・シェア:Demag製品は1~12月販売台数を含んでおります。

◇20年度の通期連結業績予想については、新型コロナウイルスによる影響を合理的に算定することが困難なため、現時点では未定とし、今後、算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

※オールテレーンクレーンとラフテレーンクレーンの略称を変更いたしました。

オールテレーンクレーン: 変更前 AC 変更後 AT  
ラフテレーンクレーン : 変更前 RC 変更後 RT

- 【会社名】** 株式会社タダノ(1948年8月24日設立)創業者 多田野 益雄  
1955年国内初の油圧式トラッククレーンを開発
- 【代表者】** 代表取締役社長(CEO)多田野 宏一
- 【本社】** 香川県高松市新田町甲34番地
- 【主な事業】** 建設用クレーン、車両搭載型クレーン、高所作業車の製造販売
- 【事業所】** 東京事務所[墨田区]、高松工場[高松市]、志度工場[さぬき市]、香西工場[高松市]、多度津工場[多度津町]、千葉工場[千葉市]
- 【拠点】** (日本)10支店、23営業所  
(海外)北京事務所[中国]、中東事務所[UAE]、モスクワ事務所[ロシア]、バンコク事務所[タイ]
- 【資本金】** 13,021百万円 **【株式】**発行済 129百万株 株主数 9,231人(20年3月末)
- 【売上高】** 227,949百万円(19年度)
- 【従業員数】** 連結 5,084人、単独 1,438人(20年3月末)
- 【関係会社】** 子会社 39社 関連会社 3社 \* Demag事業取得により子会社が8社・関連会社が1社増加

日本(計11社)  
 (株)タダノアイメス (株)タダノアイレック (株)タダノエステック 他8社

欧州(計13社)  
 タダノ・ファウン GmbH タダノ・デマーグ GmbH [独] 他11社

北米(計3社)  
 タダノ・アメリカ Corp. タダノ・マンティス Corp. [米] 他1社

その他(計12社)  
 タダノ・アジア Pte.Ltd.[シンガポール] タダノ・オセアニア Pty Ltd [オーストラリア]  
 タダノ・エスコーツ・インディア Pvt.Ltd. [インド] タダノ・タイランド Co.,Ltd.[タイ] 他8社

## 19年度決算のポイント

(単位:百万円)

	18年度		19年度		タダノ (従来ベース)		Demag		増減率
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	
売上高	188,451	100.0%	227,949	100.0%	203,187	100.0%	24,762	100.0%	21.0%
営業利益	15,835	8.4%	15,623	6.9%	17,642	8.7%	-2,019	-8.2%	-1.3%
経常利益	15,604	8.3%	15,461	6.8%					-0.9%
親会社株主 当期純利益	11,462	6.1%	7,876	3.5%					-31.3%

	18年度	19年度
設備投資額	14,458百万円	12,902百万円
減価償却費	2,984百万円	4,147百万円
為替レート(USD)	110.43円	109.05円
為替レート(EUR)	130.42円	122.07円

※設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

※為替レートは1-12月期中平均レート(海外子会社12月決算のため)

⇒19年度設備投資の内、香西工場関連は7,537百万円

### ◆増収減益

Demag事業買収により売上高としては過去最高  
従来タダノベースでは増収増益

### ◆日本向け売上高、海外向け売上高ともに増加

⇒日本向け売上高 970億円 → 1,045億円(+7.7%)

建設用クレーン・車両搭載型クレーンは増加、  
高所作業車は横ばい。

⇒海外向け売上高 913億円 → 1,234億円(+35.1%)

すべての地域で増加。

### ◆海外売上高比率 48.5% → 54.1%

### ◆営業利益率 8.4% → 6.9%

(単位:百万円)

	18年度		19年度		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
売上高	188,451	100.0%	227,949	100.0%	39,497
売上原価	137,579	73.0%	170,764	74.9%	33,184
割賦販売利益	117	0.1%	-69	-0.0%	-186
売上総利益	50,989	27.1%	57,116	25.1%	6,126
販管費	35,153	18.7%	41,493	18.2%	6,339
営業利益	15,835	8.4%	15,623	6.9%	-212
営業外損益	-231	-0.1%	-162	-0.1%	69
経常利益	15,604	8.3%	15,461	6.8%	-142
特別損益	614	0.3%	-1,956	-0.9%	-2,571
税引前当期純利益	16,218	8.6%	13,504	5.9%	-2,714
法人税等	4,728	2.5%	5,705	2.5%	977
非支配株主当期純利益	27	0.0%	-77	-0.0%	-105
親会社株主当期純利益	11,462	6.1%	7,876	3.5%	-3,585

## 【増減のポイント】

### ◆売上原価率 73.0% → 74.9%

・売価の維持改善・コストダウンによる原価低減に努めるも、コストアップ・製品構成の変化により売上原価率は前期比1.9%ポイント悪化。

### ◆販管費 6,339百万円増加

・変動費増加 + 607百万円  
 ・人件費増加 + 1,363百万円  
 ・その他諸経費増加 + 4,368百万円

### ◆営業外損益

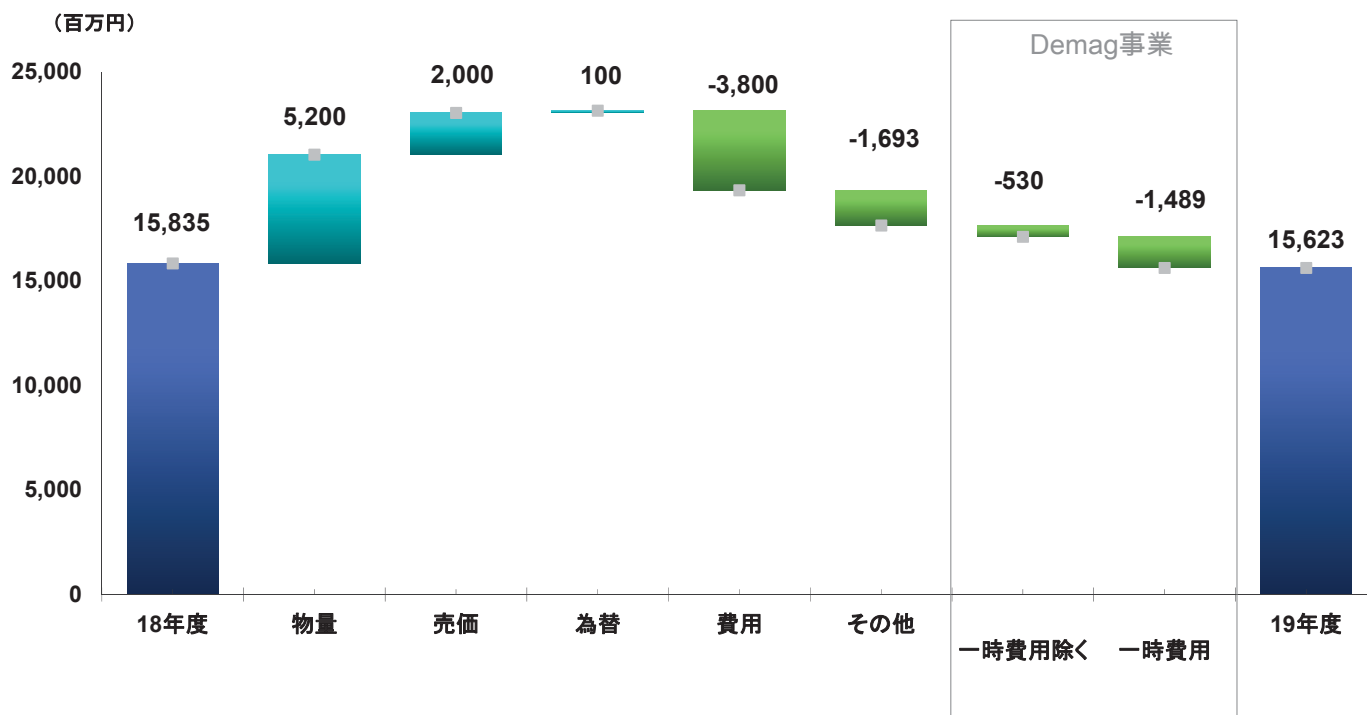
・営業外収益 537百万円 → 1,198百万円  
 ・営業外費用 768百万円 → 1,360百万円

### ◆特別損益

・特別利益 700百万円 → 511百万円  
 ・特別損失 86百万円 → 2,468百万円  
 \* 特別損失にて投資有価証券評価損24億円を計上

# 損益計算書(営業利益の増減要因)

売上が増加するも、費用の増加、Demag事業連結により、営業利益は2億円の減少。



(単位:百万円) 【増減のポイント】

	18年度末		19年度末		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
手許資金	65,952	25.8%	57,075	18.3%	-8,876
売上債権	50,836	19.9%	63,725	20.4%	12,888
たな卸資産	62,757	24.5%	97,457	31.2%	34,700
その他	6,610	2.6%	11,723	3.8%	5,112
流動資産計	186,156	72.8%	229,982	73.7%	43,825
有形固定資産	52,597	20.5%	66,417	21.3%	13,819
無形固定資産	1,703	0.7%	1,705	0.5%	1
投資その他の資産	15,336	6.0%	13,942	4.5%	-1,394
固定資産計	69,637	27.2%	82,064	26.3%	12,427
資産合計	255,793	100.0%	312,047	100.0%	56,253

仕入債務	41,792	16.3%	40,745	13.1%	-1,046
有利子負債	30,165	11.8%	63,070	20.2%	32,905
その他	28,810	11.3%	48,621	15.6%	19,811
負債計	100,768	39.4%	152,437	48.9%	51,669
純資産計	155,025	60.6%	159,609	51.1%	4,583
負債・純資産計	255,793	100.0%	312,047	100.0%	56,253

◆売上債権は増加 508億円 → 637億円  
(637億円のうちTDG72億円)

⇒売上債権回転期間は改善  
(18年度 98.5日 → 19年度 88.7日)

◆たな卸資産は増加 627億円 → 974億円  
(974億円のうちTFG182億円、TDG270億円)

⇒たな卸資産回転期間は悪化  
(18年度 121.5日 → 19年度 135.6日)

◆有利子負債は増加 301億円 → 630億円

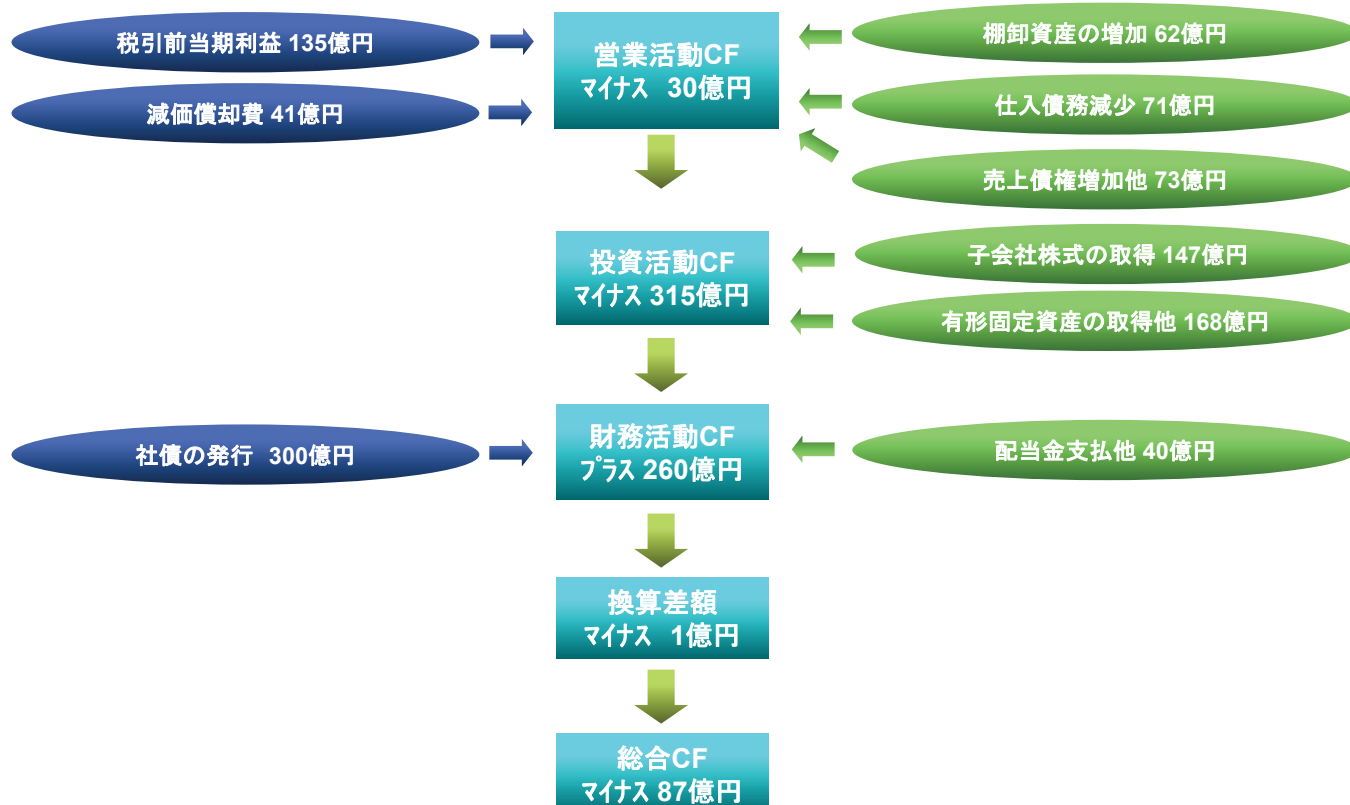
⇒短期 1億円減少 長期 330億円増加  
※2019年12月13日社債発行 150億円(7年債)  
150億円(10年債)

◆ROA(営業利益ベース)  
6.3% → 5.5%

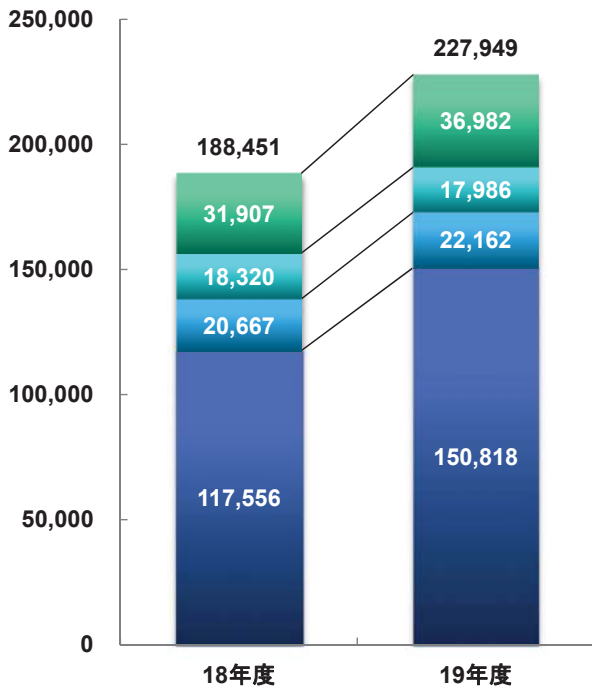
◆ROE 7.6% → 5.0%

## キャッシュ・フローの概要

投資活動キャッシュ・フローの減少により、総合キャッシュ・フローは87億円の減少。



(百万円) ■建設用クレーン ■車両搭載型クレーン  
■高所作業車 ■その他



(単位:百万円)

	18年度		19年度		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
建設用クレーン	117,556	62.4%	150,818	66.2%	33,262	28.3%
車両搭載型クレーン	20,667	11.0%	22,162	9.7%	1,495	7.2%
高所作業車	18,320	9.7%	17,986	7.9%	-333	-1.8%
その他	31,907	16.9%	36,982	16.2%	5,074	15.9%
<b>合計</b>	<b>188,451</b>	<b>100%</b>	<b>227,949</b>	<b>100%</b>	<b>39,497</b>	<b>21.0%</b>

◆海外売上高比率 48.5% → 54.1%

※建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高

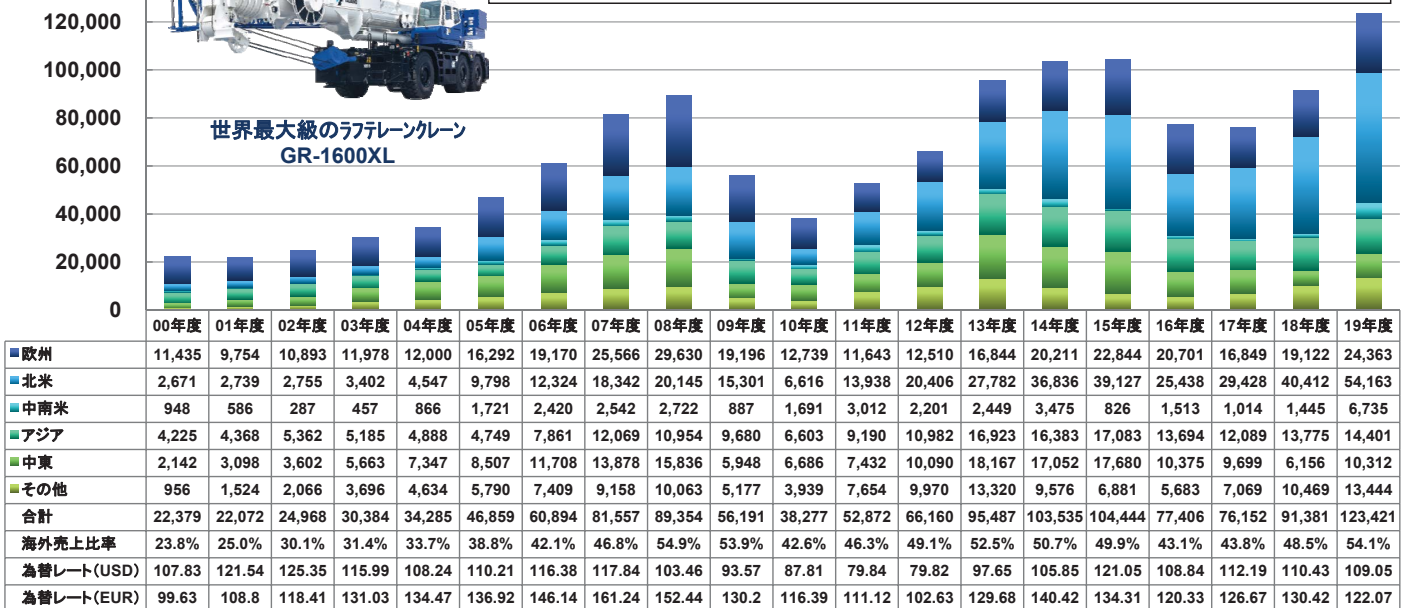
	18年度	19年度	増減	増減率
日本	42,250	47,833	5,583	13.2%
海外	75,306	102,984	27,678	36.8%

# 海外仕向地別売上高推移

(百万円)

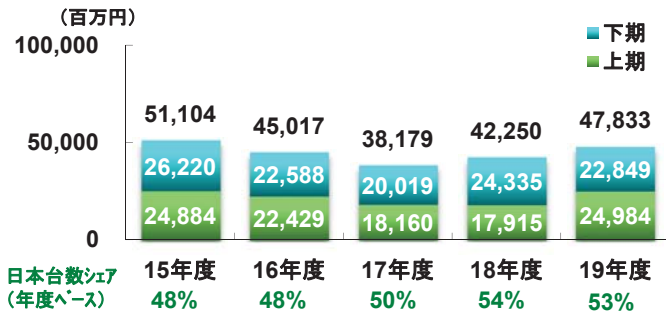


海外売上高は前期より、35.1%増加した。  
欧州+27.4%、北米+34.0%、中南米+366.1%、アジア+4.5%、中東+67.5%(前期比)。  
北米、中南米向け売上は過去最高を更新。

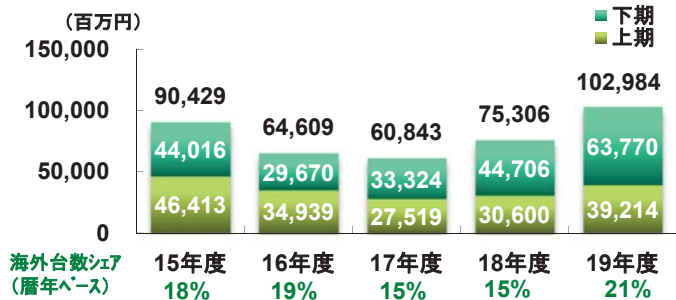


※・その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。  
・為替レートは期中平均レート(海外子会社12月決算のため、通期1-12月平均)  
・01年度以前はDMをEURに換算したものを表示しております。

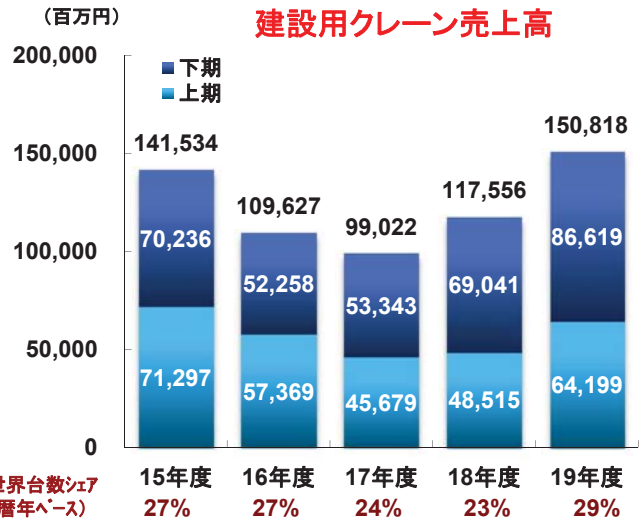
## 建設用クレーン売上高(日本)



## 建設用クレーン売上高(海外)

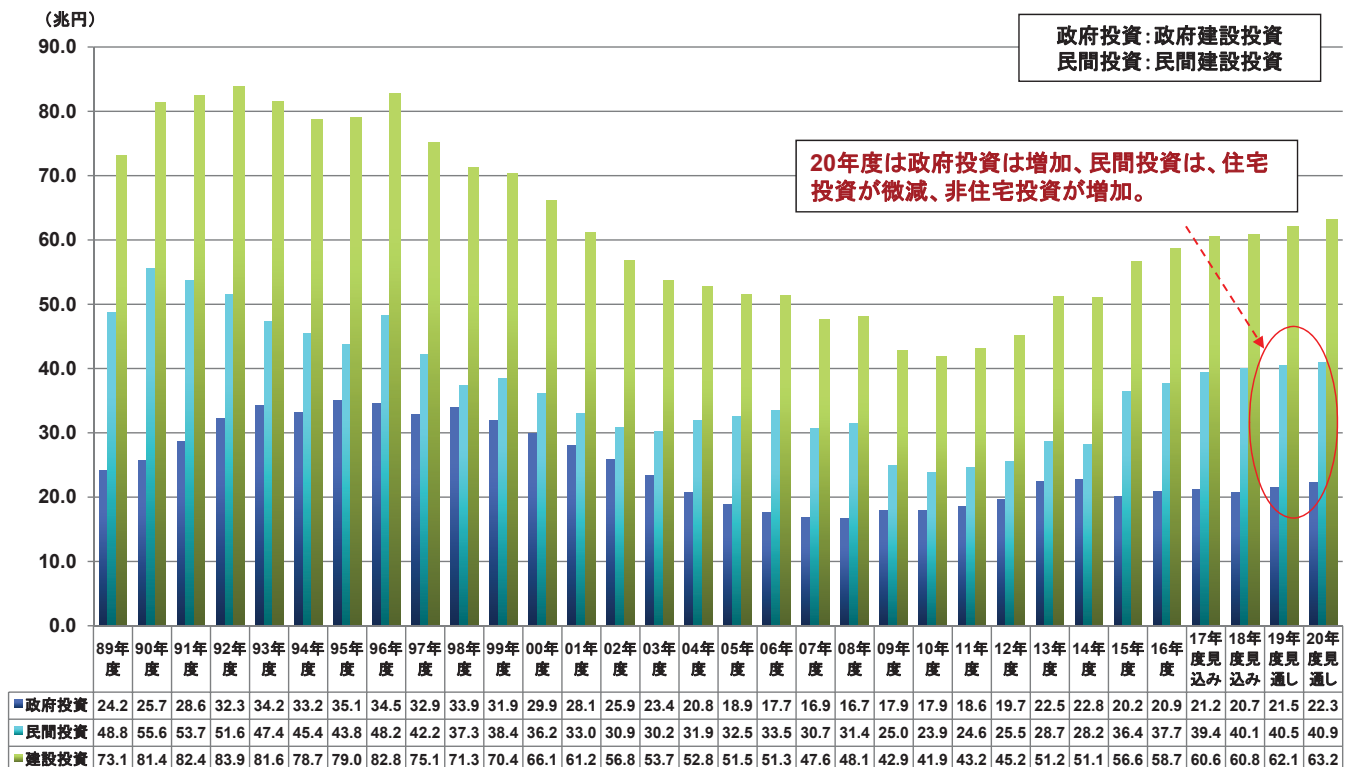


## 建設用クレーン売上高



※シェアは小数点以下を四捨五入  
 ※シェアはDemag製品の1~12月販売台数を含む。

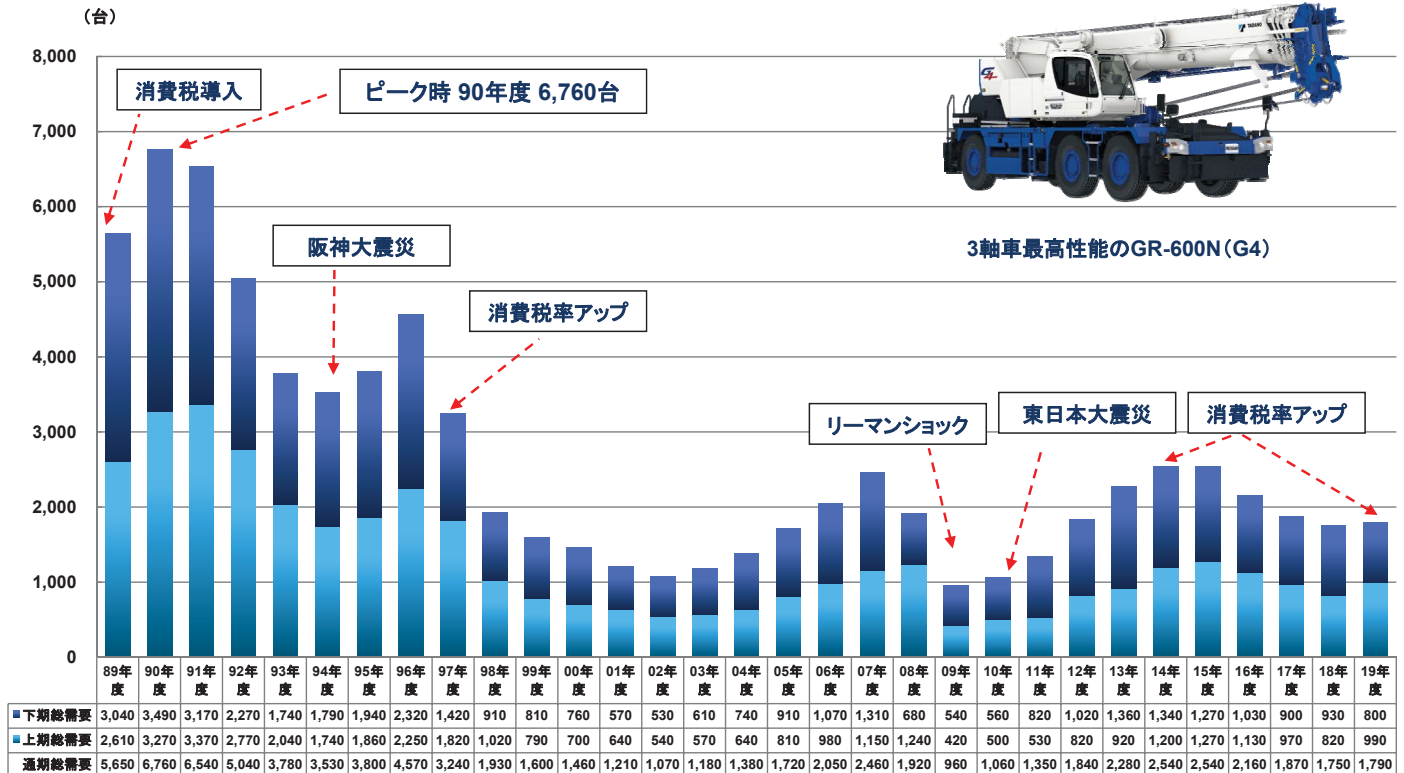
# 日本建設投資の推移と見通し



※ 数字はすべて名目建設投資。予測は、建設経済研究所の「建設投資の見通し」(20年1月30日発表)による。



3軸車最高性能のGR-600N(G4)



※ 数字は当社調べ。  
※ 需要数値は10台単位に四捨五入。

## 建設用クレーン

日本シェア 54% → **53%** ※シェアは小数点以下を四捨五入、需要数値は10台単位に四捨五入。

油圧式建設用クレーン日本総需要 1,790台 (19年度、当社調べ) 前期比2%増

⇒需要は横ばいの中、大型機種種の拡販。トン数シェア47%→**55%**

日本向け売上高は478億3千3百万円(前期比 113.2%)

### 【ラフテレーンクレーン】

- ・日本建設用クレーンの中心機種  
日本総需要の94%(北米総需要の56%)
- ・市街地の建築工事に欠かせない都市型クレーン  
コンパクトな車体で、狭小地でも性能発揮  
(前輪、後輪共にsteering可能)
- ・クレーンの運転席と自動車の運転席が兼用
- ・日本向け13~100t吊り 8機種(タダノ製造)  
海外向け13~145t吊り 15機種(タダノ製造、印TEI製造)
- ・全23機種中20機種に動態管理システム搭載
- ・日本は一般道走行  
北米はトレーラー輸送



GR-1000N(G4)

### 【オールテレーンクレーン】

- ・日本では都市開発、高架・橋梁工事向けの大型クレーン  
日本総需要の5%  
(欧州総需要の85%)
- ・遠距離走行性に加え  
小回り性にも優れる。  
(steeringに特徴)
- ・海外向け40~400t吊り 14機種(独TFG製造)
- ・日本向け100~550t吊り 7機種(独TFG製造、タダノ製造)
- ・全21機種中15機種に動態管理システム搭載
- ・Demagブランド: 40~1200t吊り 15機種
- ・日本での一般道走行時には分解搬送が必要  
欧州では分解走行不要



ATF-200N-5.1

## 【トラッククレーン】

- ・走行性に優れたトラックに架装したクレーン。日本総需要は数台、主に海外向け
- ・遠距離走行性に優れる。
- ・日本向け13～35t吊り3機種(タダノ製造)
- ・海外向け30～75t吊り6機種(タダノ・独TFG製造)
- ・全9機種中5機種に動態管理システム搭載



GT-600EL

## 【クローラクレーン】

- ・無限軌道式履帯(クローラ)を装備した走行体に架装したクレーン。
- ・不整地や地盤が軟弱な現場で機動性に優れる。
- ・現場間の移動はトレーラーなどでの搬送が必要。

### ラチスブーム式

- ・橋梁、風力発電、プラントなどの大型構造物の建設に使用される。
- ・海外、日本向け 400～3200t吊り 7機種 をDemagプラントで展開(独TDG製造)

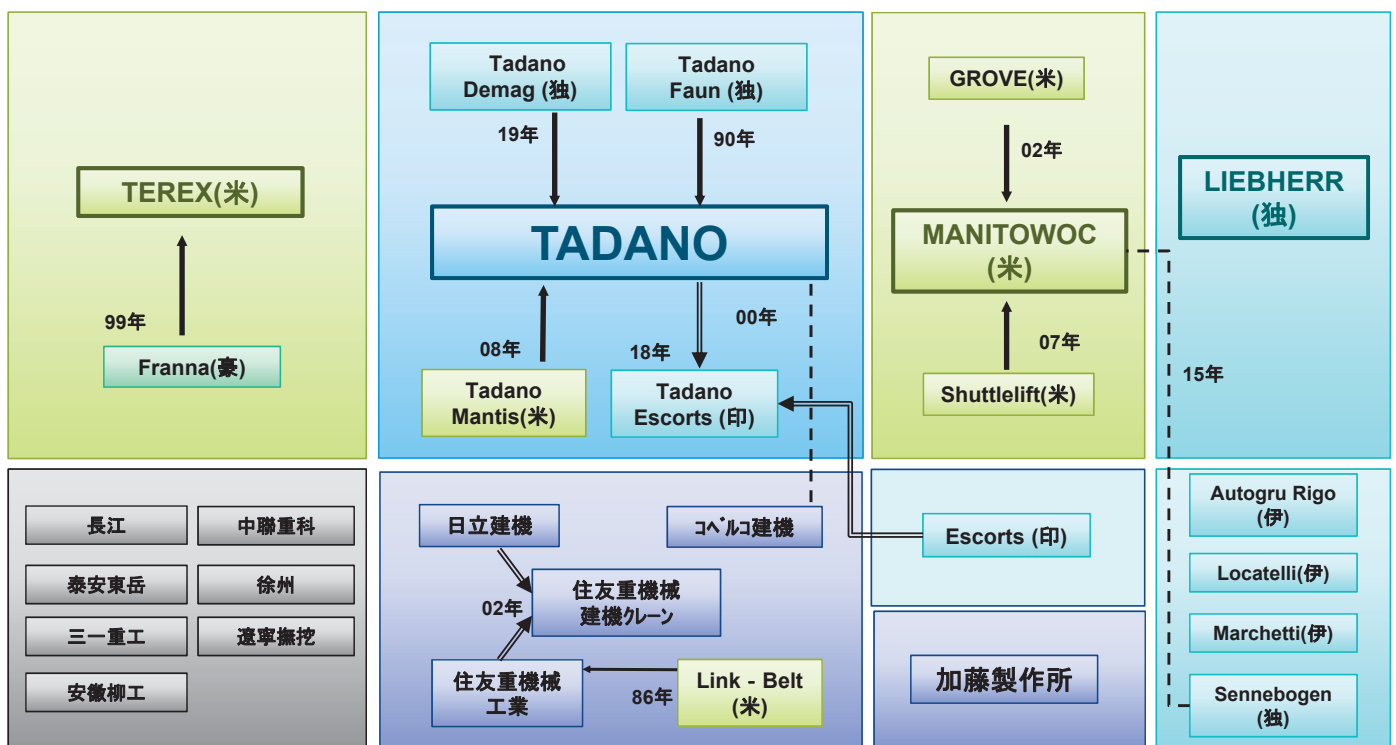
### 伸縮ブーム式

- ・土木、建設工事に使われ、不整地や泥濘地、トンネル内での作業などに使用される。
- ・海外向け 35～120t吊り 10機種(米TMC製造)



CC-3800-1  
(ラチスブーム式)

# クレーン業界図(油圧式クレーンメーカー・クローラクレーンメーカー)



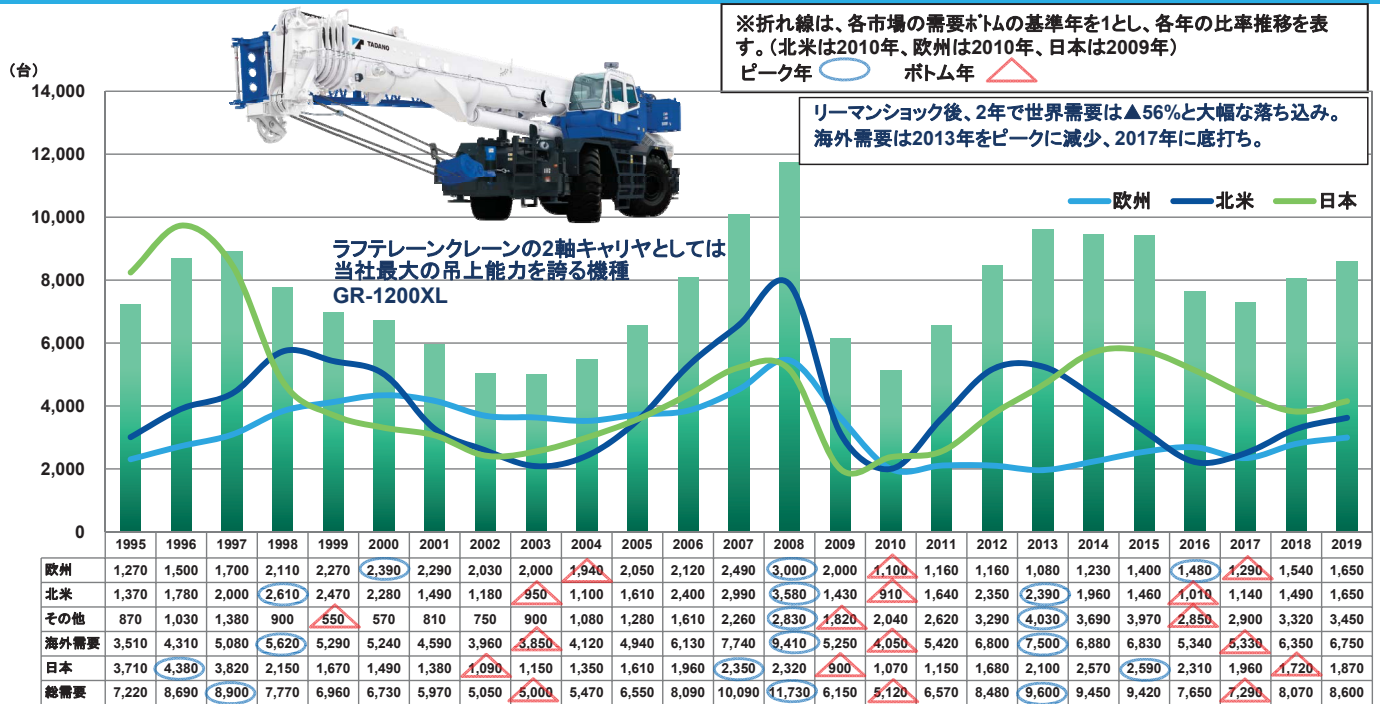
徐州=XCMG Xuzhou Construction Machinery Group, 中聯重科=Zoomlion, 三一重工=Sany, 安徽柳工=Liugong

\* 日本建設機械工業会資料より、当社作成

→ 買収を示す。(数値はその年度)  
 - - - 提携を示す。(数値はその年度)  
 ⇨ 出資・JVを示す。



# 建設用クレーンの世界総需要推移(暦年ベース)



1. ロシア国産は上記に含まず。

2. 2010年以降、中国国産の輸出を含む。

中国国産の中国市場向けは上記に含まず。中国市場における中国国産の総需要推移は次の通り。

2012年約2万2千台、2013年約1万7千台、2014年約1万4千台、2015年約9千台、2016年約9千台、2017年約2万台、2018年約3万2千台、2019年約4万2千台

※数値は、当社推計。需要数値は10台単位に四捨五入。

# 建設用クレーン 地域別需要機種構成(暦年ベース)

世界シェア 23% → 29%

油圧式建設用クレーン 世界総需要 8,070台 → 8,620台 (19年1-12月、当社調べ) 前期比 7%増

■ TC  
■ RT  
■ AT

欧州 総需 1,540台 → 1,650台(+7%)  
TC 110台・RT 150台・AT 1,390台  
(当社シェア 10% → 19%)

日本 総需 1,720台 → 1,870台(+9%)  
TC 20台・RT 1,750台・AT 100台  
(当社シェア 53% → 55%)

北米 総需 1,490台 → 1,650台(+11%)  
TC 230台・RT 920台・AT 500台  
(当社シェア 26% → 35%)

アジア 総需 1,070台 → 1,290台(+21%)  
TC 850台・RT 300台・AT 140台  
(当社シェア 14% → 13%)

中東 総需 870台 → 650台(△25%)  
TC 270台・RT 250台・AT 130台  
(当社シェア 11% → 20%)

その他 総需 1,160台 → 1,240台(+7%)  
TC 700台・RT 270台・AT 270台  
(当社シェア 12% → 16%)

中南米 総需 220台 → 270台(+23%)  
TC 70台・RT 90台・AT 110台  
(当社シェア 11% → 25%)

1. ロシア国産は上記に含まず。

2. 中国国産の中国市場向けは上記に含まず。

3. TCはトラッククレーン、RTはラフテレーンクレーン、ATはオールテレーンクレーンを表す。その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。台数・シェアは、前期からの変化を示す。※数値は、当社推計。需要数値は10台単位に四捨五入、シェアは小数点以下を四捨五入。

※シェアはDemag製品の1~12月販売台数を含む。

## <欧州事業の課題>

欧州事業の黒字化  
TFGとTDGによるシナジー創出  
欧州でのシェアアップと欧州域外への拡販

### ●欧州グループ会社の概要

#### 【Tadano Faun GmbH】

90年に買収、資本金:45百万EUR 当社100%出資  
所在地:ドイツ Lauf a.d. Pegnitz  
事業内容:オールテレーンクレーン・トラッククレーンの開発・製造・販売  
代表者:社長 Jens Ennen、従業員:650人  
売上高の推移:

14年:308百万EUR/347台、15年:304百万EUR/376台、16年:319百万EUR/363台  
17年:279百万EUR/311台、18年:313百万EUR/361台、19年:349百万EUR/358台



ATF400G-6

#### 【Tadano Demag GmbH】

19年に買収、資本金:20百万EUR 当社100%出資  
所在地:ドイツ Zweibrücken  
事業内容:オールテレーンクレーン・クローラークレーンの開発・製造・販売  
代表者:社長 Jens Ennen、従業員:1,472人

売上高の推移:19年:204百万EUR/152台(8~12月の5カ月間)

(参考)当該買収に関連するDemag事業売上高の推移

15年:631百万USD、16年:494百万USD、17年:470百万USD、18年:487百万USD

※上記、売上高はTerex社より提供された未監査の数字



CC 8800-1

17

# 北米事業

## <北米事業の課題>

ポジションアップ

### ●北米グループ会社の概要

#### 【Tadano America Corp.】

資本金:2.5百万USD TAH社100%出資 所在地:米国 Houston  
事業内容:建設用クレーンの販売  
代表者:社長 Ingo Schiller  
従業員:117人

売上高の推移:14年 305百万USD、15年 285百万USD、16年 206百万USD  
17年 230百万USD、18年 330百万USD、19年 492百万USD



Tadano America Corp.

#### 【Tadano Mantis Corp.】

08年に買収、資本金:287千USD TAH社100%出資  
所在地:米国 Franklin

事業内容:油圧伸縮ブーム式クローラークレーンの製造・販売  
主要製品:伸縮ブーム式クローラークレーン(履帯式の足回りを持つキャリアに油圧伸縮するブームを持つクレーンを組み合わせた製品)。主に土木・建設工事に使われ、不整地や泥濘地、トンネル内での作業などに適する。

代表者:社長 Julie Fuller

従業員:142人

売上高の推移:14年 30百万USD、15年 40百万USD、16年 27百万USD  
17年 36百万USD、18年 44百万USD、19年 47百万USD



GTC-500

タダノのコア技術を導入した  
GTCシリーズ化が完了

※TAH社は、TADANO America Holdings,Inc.の略。

18

## <その他地域での課題>

中国メーカーの台頭

### ●その他地域のグループ会社の概要

#### 【Tadano Asia Pte. Ltd.】

設立: 96年8月  
 資本金: 1,000千SGD  
 出資比率: 当社 80%、Multico Infracore Holdings Pte. Ltd. 20%  
 所在地: シンガポール  
 事業内容: 建設用クレーンの販売・サービス  
 代表者: 社長 林 宏三 従業員: 26人

#### 【Tadano Oceania Pty Ltd】

設立: 10年2月  
 資本金: 34,325千AUD 当社 100%出資  
 所在地: オーストラリア Darra  
 事業内容: 建設用クレーンの販売・サービス  
 代表者: 社長 Anthony Grosser 従業員: 68人

#### 【Tadano Escorts India Pvt. Ltd.】

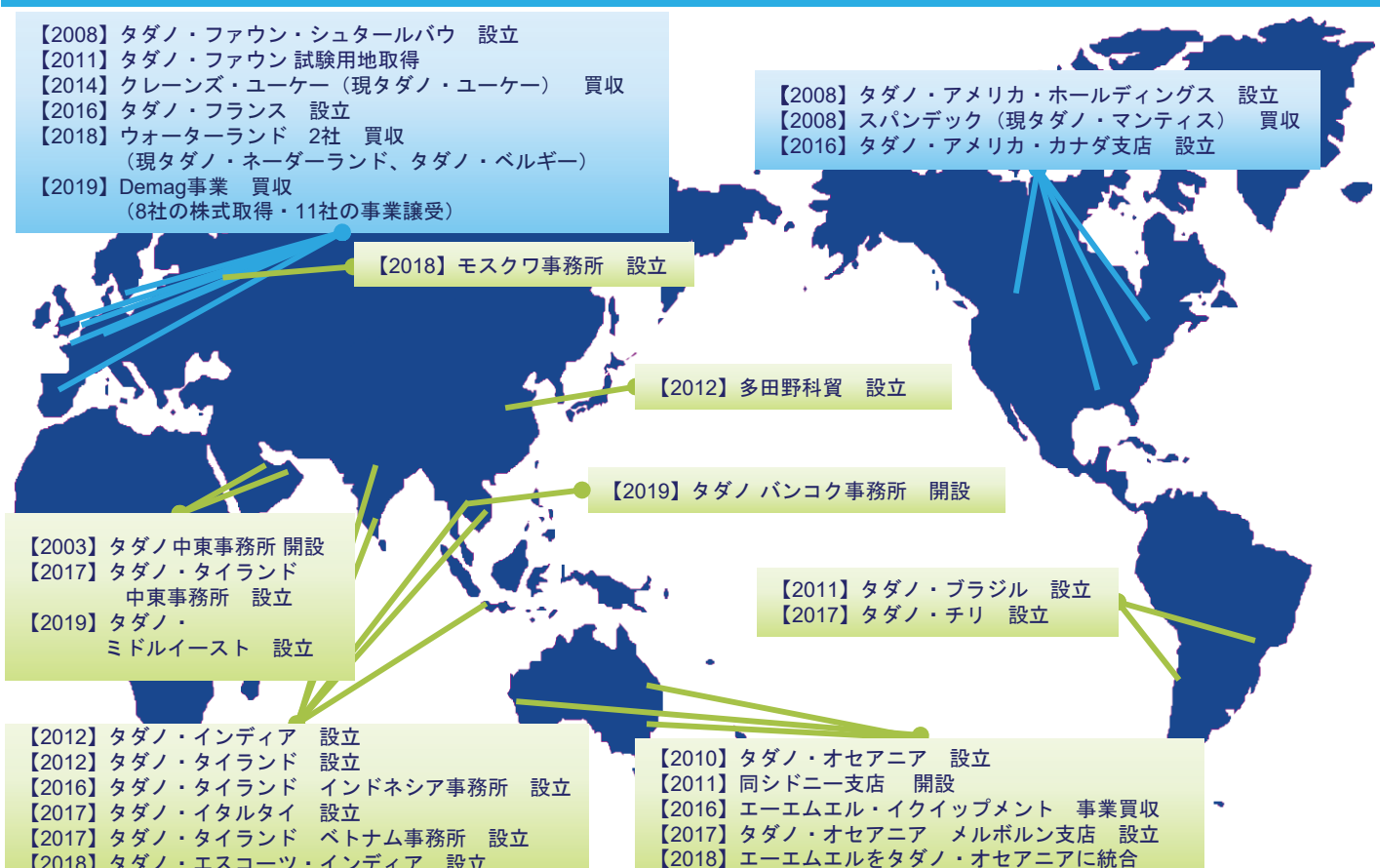
設立: 18年12月  
 資本金: 600,000千INR 当社 51%出資、Escorts Ltd. 49%  
 所在地: インド Faridabad  
 事業内容: 建設用クレーンの開発・製造・販売・サービス  
 代表者: 社長 中山 哲 従業員: 63人



GT-750EL

## 海外展開の加速 (2003年以降)

～ 30社設立・買収、19拠点新設  
うち、3社撤退、2社・2拠点移転



## 【カーゴクレーン】日本シェア 50% → 48%

日本総需要 15,570台(19年度、当社調べ) 前期比2%減

⇒安全装置法制化と小型トラックの排ガス規制による駆け込み需要が年度前半で終息したが、  
 拡販に注力し、売上高は、221億6千2百万円(前期比 107.2%)

- ・通常のトラックに架装した小型クレーン、貨物の積載・運搬・設置作業等が1台で可
- ・物流用途、造園業や建設業用途、トラックディーラーの间接販売
- ・小型・中型・大型トラック架装用に多数の機種 0.49t~15t吊り

- ～関係省庁～
  - ・主に厚生労働省(クレーンの規制)
- ～主な販売先と特徴～
  - ・トラックディーラー
  - ・トラック需要に左右される傾向



安全装置「過負荷防止装置」を標準装備

### (海外展開)

- ・カーゴクレーンの戦略市場向け輸出に注力。クレーン部を輸出し、  
 現地にてトラックに架装。

18年度売上:20.0億円 → 19年度売上:18.7億円

- ・12年4月タイに製造子会社を設立し、  
 海外展開を加速。

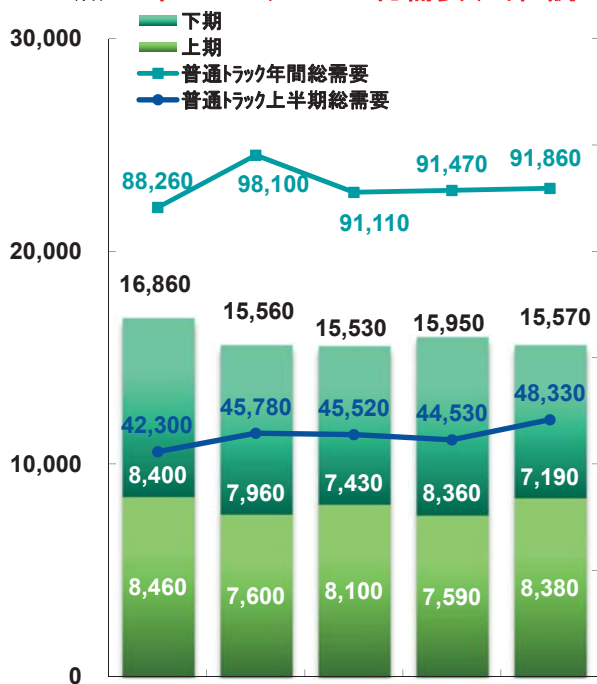


輸出カーゴクレーンZR560



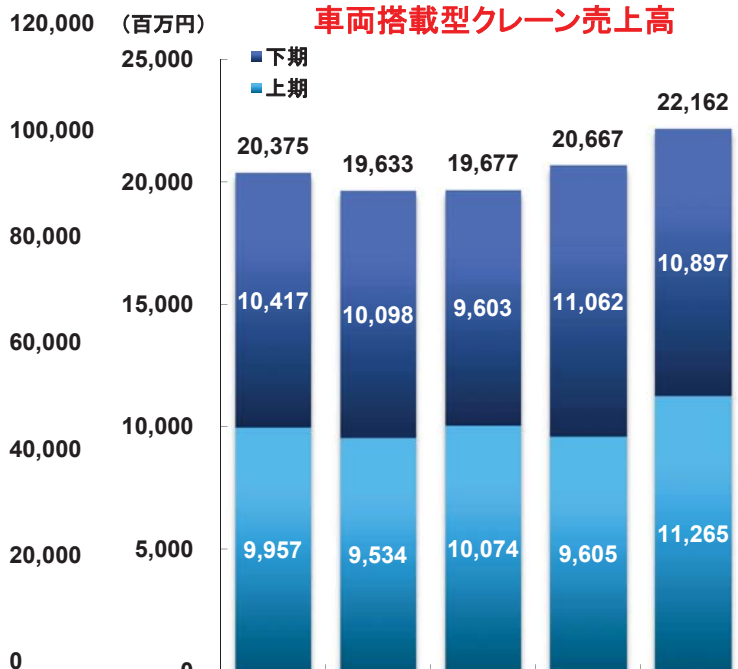
スライドキャリア(車輛運搬車)

## (台) 日本カーゴクレーン総需要(当社調べ) (台)



前年同期増減率(年度ベース)  
 15年度 △4%  
 16年度 △8%  
 17年度 △0%  
 18年度 +3%  
 19年度 △2%

## 車両搭載型クレーン売上高



日本台数シェア(年度ベース)

※ 需要数値は10台単位に四捨五入、シェアは小数点以下を四捨五入。

## 【 Tadano Italthai Co., Ltd. 】

資本金:50百万THB (出資比率 当社 49%、ITI社 48%、MHCB社 3%)  
設立:17年5月(Tadano Thai Parts and Service 社の社名をTadano Italthai に変更し、ITI社が資本参加。ITI社は建設用クレーンの当社の代理店(Italthai Industrial ))  
所在地:タイ Bangkok、事業内容:カーゴクレーンの販売  
代表者:社長 伊賀 英俊、従業員:11人



タイ工場で生産のカーゴクレーン ZT1000  
(16年07月新発売)

## 【 Tadano (Thailand) Co., Ltd. 】

資本金:636百万THB 当社100%出資 設立:12年4月(13年6月操業開始)  
所在地:タイ Rayong、事業内容:カーゴクレーンの製造・販売  
生産能力:1,000台/年 (販売台数:14年 258台、15年 418台、16年 385台、17年 381台、18年度 407台、19年度 357台)  
代表者:社長 三谷 俊祐、従業員:51人

- 車両搭載型クレーンの初の海外生産拠点。本製造子会社設立により、海外展開をさらに加速させるとともに、収益性の向上を目指す。



Tadano (Thailand)  
工場内



Tadano (Thailand)

## 日本シェア 34% → 35%

トラック搭載タイプ日本総需要 5,030台(19年度、当社調べ) 前期比横ばい

⇒ 小型トラックの排ガス規制による駆け込み需要が年度前半で終息し、

売上高は、179億8千6百万円(前期比 98.2%)

### [トラック式]

- ・通信用 5機種、電工用 3機種
- ・一般工事用 14機種

### [ホイール式] 2機種

- [スーパーデッキ] 5機種  
(高度な制御技術を装備)

- [ブリッジチェッカー] 3機種  
(高架道路や橋梁点検用)

- ・全32機種中26機種に  
動態管理システム搭載



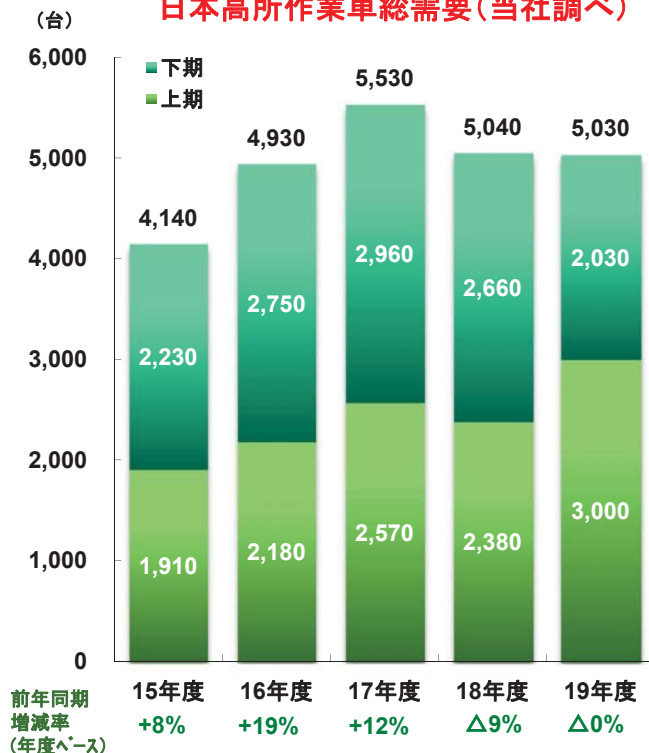
### ～関係省庁～

- ・主に厚生労働省(高所作業車の規制)

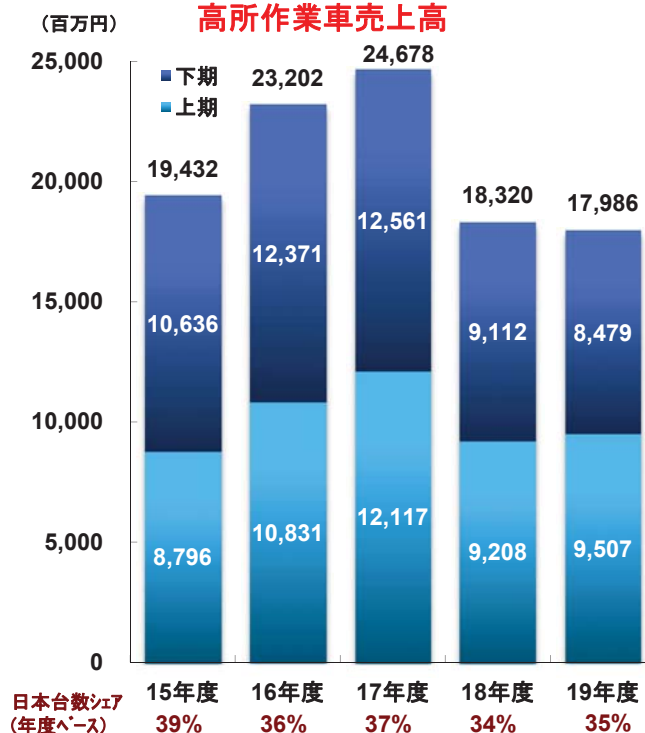
### ～主な販売先と特徴～

- ・電力電工、通信、レンタル、一般、造船、国土交通省

## 日本高所作業車総需要(当社調べ)



## 高所作業車売上高



※ 需要数値は10台単位に四捨五入、シェアは小数点以下を四捨五入。

⇒ 部品、修理、中古車等のその他売上高は、369億8千2百万円（前期比 115.9%）

## 【中古クレーン】

- ・当期は、日本向けは減少、海外向けは増加。
- ・今後はグローバル化に注力。

## 【部品修理】

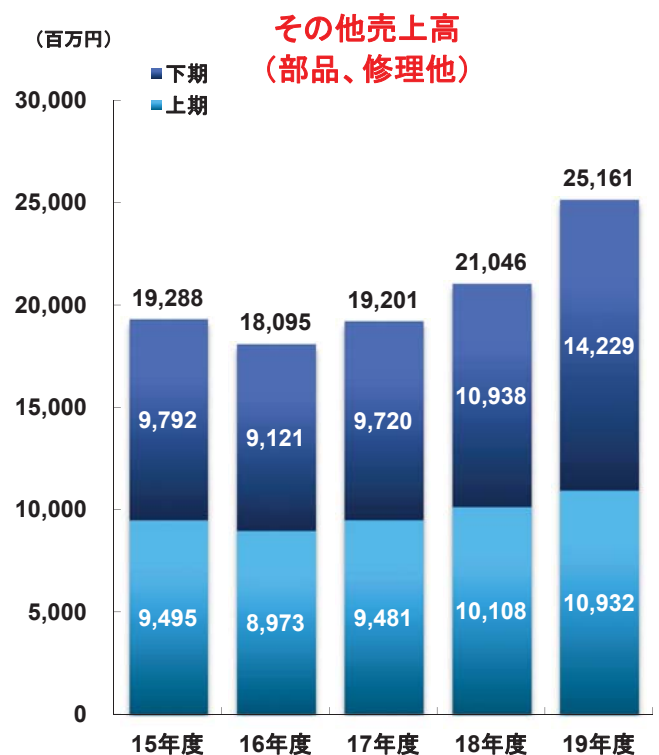
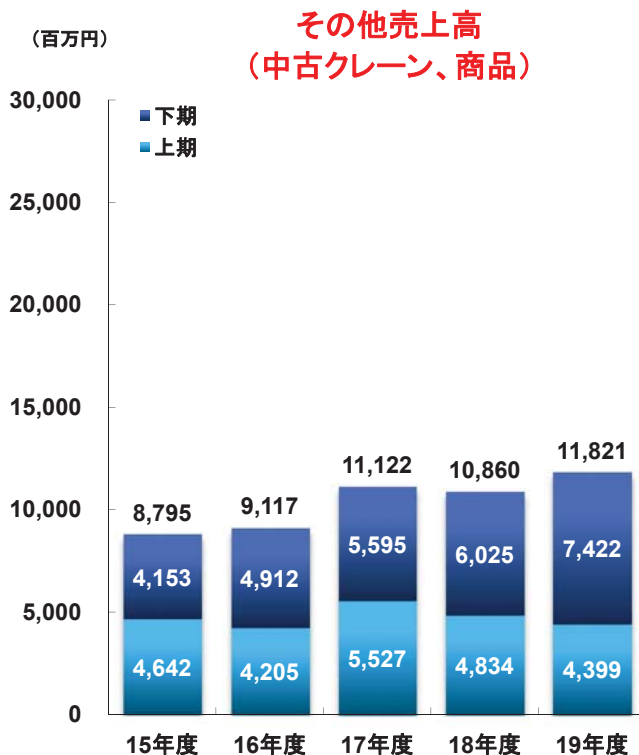
- ・当社は、修理用の部品売上を計上  
（修理は、主に指定サービス工場や海外代理店が担当し、  
指定サービス工場や海外代理店で売上計上）
- ・当期は、日本向け、海外向けともに増加。



門型油圧リフター：TB-1000

## 【門型油圧リフター】

- ・移動式クレーンや天井クレーンが使用できない屋内設備・クリーンルーム・トンネルなどの特殊な環境においても、重量物の搬入搬出・据付作業などを安全・効率的に実施。



20年度の通期連結業績予想については、新型コロナウイルスによる影響を合理的に算定することが困難なため、現時点では未定とし、今後、算定が可能となった時点で速やかに開示いたします。

(単位:百万円)

	19年度		20年度予想		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	227,949	100.0%	-	-	-
営業利益	15,623	6.9%	-	-	-
経常利益	15,461	6.8%	-	-	-
親会社株主当期純利益	7,876	3.5%	-	-	-

## 【20年度の経営方針】

- ①コアバリューの追求(C+SQE)
- ②中期経営計画(20-22)初年度への取り組み
- ③欧州事業再建(RISE 推進)
- ④ビッグプロジェクト推進
- ⑤ESG・SDGs 取り組み第一歩

## 【中期経営計画(20-22)8つの戦略】

- ①市場ポジションアップ
- ②四拍子強化
- ③グローバル&フレキシブルものづくりへの取り組み
- ④ライフサイクル価値の向上
- ⑤新技術取り組みとソリューションビジネス展開
- ⑥収益力回復・資産効率改善
- ⑦グループ&グローバル経営基盤の強化
- ⑧人財活用

1株当たり配当金	中間	14.00円	中間	-
	期末	14.00円	期末	-
	年間	28.00円	年間	-

\*19年度中間・期末配当には記念配当1円を含んでおります。

設備投資額	12,902百万円	-
減価償却費	4,147百万円	-
為替レート(USD)	109.05円	-
為替レート(EUR)	122.07円	-

※設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

# TOPICS ~更なるグローバル化に向けた取り組み~

## Demagクレーン事業の統合(1)

2019年7月末に、Demagクレーン事業の買収が完了しました。以降、早期シナジー効果発揮のため、統合活動を推進しております。

### ◆事業全体の活動状況

- ・タダノの製品ラインナップに超大型のクローラクレーン・オールテレーンクレーンが加わることで、幅広いラインナップでお客様のニーズに対応が可能に
- ・アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランス、イタリア及びスペインの営業・サービス事業の統合完了
- ・2019年10月にDemag事業の中心となるTDGで開催された、グローバル戦略会議において、今後の事業統合ロードマップを策定



TDG(ドイツ)で開催されたグローバル戦略会議



※ TDG=タダノ・デマーグ GmbH  
TFG=タダノ・ファウン GmbH  
TAC=タダノ・アメリカ Corp.  
LBC=ラチスブーム式クローラクレーン



シンガポールの現場でタワーを吊り上げる世界最大級のLBCであるCC 8800-1

TAC(米国)にて一緒に出荷を待つ  
TFG製ATF 100G-4(左)とTDG製AC 100-4(右)



## Demagクレーン事業の統合(2)

買収完了後、12の機能別クロスカンパニーチーム(CCT)を組成し、統合活動とベストプラクティスの実現に取り組んでおります。

### ◆機能別の活動状況

- ・開発: TFGとTDGの開発部門にて共通設計ソフトを通じて、製品の共同開発を実施中
- ・購買: TFGとTDGの共同購買によるスケールメリットを活かした原価低減活動を実施中
- ・生産: TFG、TDG両社の工場でのクロスプロダクションや相互供給体制の構築
- ・CS : 横浜港国際物流センター内にて、TDG製品用の横浜部品センターを開設  
タダノとDemagの両ブランド製品のクロストレーニングによるサービス力の強化



TFG工場で組み立てているTDGブランドとタダノブランドのオールテレーンクレーン



世界最大級建機展CONEXPO2020 Demag製品が初めてタダノブースに



統合に向けたスローガン「Stronger Together」

当社は、「次なる100年」を見据え、「誇れる企業」を目指して、ESG・SDGsへの取り組みを強化してまいります。

### ◆2019年度の取り組み

- ・香西工場に最新のエネルギー管理システム(EMS)を導入
- ・SDGパートナーズをアドバイザーとし、社内SDGs講演会を開催
- ・タスクフォースを組成し、ESG・SDGs推進の本格検討を開始
- ・全役員出席の会議にて、SDGsに関する集中討議を実施

### ◆2020年度の取り組み予定

- ・中期経営計画(20-22)の重点テーマの一つとして「ESG・SDGs推進」を設定
- ・グループの活動推進を統括する「SDGs推進委員会」、実行専任組織である「SDGs推進グループ」を新設
- ・「価値創造モデル」の検討、具体的取り組みの検討・推進



SDGパートナーズ田瀬様による社内SDGs講演会



海外拠点に対しても英語版動画を通じて説明を実施



全役員による「価値創造モデル」に関する議論

※ESG = 「Environment, Social, Governance」(環境・社会・ガバナンス)  
SDGs = 「Sustainable Development Goals」(国連にて全会一致で可決された、地球環境や社会が将来的に持続可能であり続けるための17のゴール)

◆日本市場向  
AT-320XTG  
最新鋭 高所作業車 発売



**【新設計21面体ブーム】**  
国産初の超軽量21面体ブームを採用。軽量化とたわみを抑える高剛性を両立。高張力鋼板の大断面ブームが、先進の制御技術とともに作業の快適性を高める。

**【クラス最大の作業領域】**  
最大地上高: 32.0m  
最大作業半径: 17.0m  
※限定中型免許クラスとして

**【コンパクトな車体で、27mクラスの機動性】**  
車両寸法・車両重量は27mクラスと同等。コンパクトな車体で、活躍の場を広げる。

◆北米市場向 新世代ラフテレーンクレーン  
GR-1000XLL-4 / 1000XL-4 / 800XL-4  
3機種を同時発売



【操作性の向上した新型キャブ】



**【クラス最長ブームを搭載】**  
(GR-1000XLL-4)  
吊り上げ荷重100ショートトン・クラスのマルチ伸縮シリンダ・ブームでは、最長の51mロングブームを採用。



**【新機能 Smart Counterweight】**  
(GR-1000XLL-4 / GR-1000XL-4)  
ラフテレーンクレーンでは初のカウンタウェイト装着位置が移設可能な新機構。

ご安全に!  
[Safety First!]

